■会議報告

JASRI/SPring-8 研究講演会「女性研究者が手がける有機・高分子材料科学—放射光利用研究の現状と将来—」を開催して

佐々木　園　（財団法人高輝度光科学研究センター）

2007年6月1日（金），SPring-8 放射光普及棟にて，研究講演会「女性研究者が手がける有機・高分子材料科学—放射光利用研究の現状と将来—」（主催：㈶高輝度光科学研究センター（JASRI），協賛：㈱理化学研究所，㈳高分子学会，SPring-8 利用者懇談会）が開催されました。本講演会は，有機・高分子材料分野の女性研究者の先端放射光利用と女性研究者間のネットワーク作りを促進する目的で企画されました。

講演会の冒頭に，吉良爽理事長（JASRI）から開会の挨拶がありました。研究活動を行う能力においては男女間で差はなく，今後もより多くの女性が SPring-8 で研究を発展させて，分野の第一線で活躍されることを期待している，という旨の力強い激励を頂戴しました。特に，サイエンスにおいては，“女流研究者”ではなく，男性研究者と同じ土俵で“女性研究者”としての活躍を目指してほしいとの言葉は，強く印象に残りました。（ここでの“女流”とは，スポーツや将棋の世界で見られるような，女性だけの枠組みの中で専門的な活動することを意味しています。）次に，高原淳教授（九州大学先導物質化学研究所/SPring-8 利用者懇談会利用促進委員会・副委員長）および高田昌樹主任（㈱理化学研究所播磨研究所/JASRI）が，それぞれ協賛機関を代表して挨拶をされました。

午前の講演プログラムは，北村英男主任（㈱理化学研究所播磨研究所）のご講演から始まりました。北村主任は，「世界の放射光科学 COE：SPring-8」というタイトルで，放射光に関わる国内の光源開発の軌跡と現在 SPring-8 サイト内で国家基幹技術として建設中の X 線自由電子レーザーへの期待について述べられました。その後，「第1部　女性研究者が手がける有機・高分子材料最先端科学」として，今栄東洋子特別研究教授（慶応義塾大学大学院理工学研究科/日本学術会議会員），栗原和枝教授（東北大学多元物質科学研究所/日本学術会議会員）そして龔剣萍教授（北海道大学大学院理学研究院）が最新の研究成果を紹介されました。午後の講演プログラム「第2部　女性研究者が手がける有機・高分子材料の放射光構造物性研究」では，SPring-8 をはじめとする国内外の放射光施設を利用して行った研究例が紹介されました。講演者は，池田裕子准教授（京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科），毛利

SPring-8 の蓄積リングを背景にした集合写真

(C) 2007 The Japanese Society for Synchrotron Radiation Research

恵美子助手（九州工業大学工学部），佐藤春実博士研究員（関西学院大学理工学部），渡邊香織研究員（㈱科学技術振興機構研究成果活用プラザ広島），長谷川美貴講師（青山学院大学理工学部），そして筆者です。

高分子の構造特性の一つは，サブ nm から数百 μm の異なるスケールで形成される秩序構造（階層構造）です。そのため，実験では，試料からの X 線回折・散乱を広範囲の q（広角～小角領域）で精度よく検出することが肝要です。新規材料開発と材料の構造物性制御には，高分子の静的・動的構造に関する知見を得ることが重要であることは言うまでもありません。今回の講演で，バルク試料から薄膜まで，全体から局所領域まで，そして，様々な外部環境下にある高分子材料の構造解析に放射光が有効な光源であることが改めて示されました。それと同時に，女性研究者の講演を集めた事で，研究の方向性・着眼点と言う点に“男女の違い”というものがあること，女性の美的感性がテーマの選択や研究発表の仕方にうまく活かされていたこと等に気づかされる場面が多々ありました。各講演者には，女性が研究者として社会参加・参画することの魅力や重要性についてもエピソードをまじえながらお話いただきましたので，女子学生や若手研究者が今後の進路を考える上で参考になったと思います。

本講演会は，楽しい雰囲気の中で，質疑応答が活発に行われ終了時刻を大幅に超えるほどでした。懇親会を兼ねた昼食会後に実施したビームライン見学会では，初めて放射光施設の実験ホールに入られた方もおられ，施設が想像以上に広く大きいことに驚かれた様子でした。参加者は，BL02B2（粉末結晶構造解析），BL04B2（高エネルギー X 線回折），BL40B2（構造生物学Ⅱ）そして BL45XU（理研　構造生物学Ⅰ）を訪れ，各ビームライン担当者が説明する計測装置の特徴と研究成果を熱心に聞いていました。

閉会にあたって，高分子学会男女共同参画委員長の栗原和枝教授が，女性研究者の存在意義と，本活動への今後の積極的な取り組みについて述べられました。参加者数は約40名で，終始和やかな雰囲気で盛会のうちに終了しました。今回の講演会を，より多くの男性研究者の参加のもとに，放射光利用という観点から男女共同参画のあり方についても議論できる講演会へと発展させていければと考えています。